



本年度の水泳指導

学校長 岡本 敏樹

昨年度は水泳授業を全面的に中止しましたが、本年度は実施予定です。水泳はマスクを外しての活動となります。そこで、コロナ感染防止に向けてどのような対策をするのか、以下に説明いたします。

【水泳授業開始】

プール掃除：6月10日（木）

水泳開始：6月21日（月）以降

【隣接学年での合同実施】

水泳は教師一人では実施しません。心肺停止の危険性がある運動なので、1.2年3.4年のように複数学年合同で実施します。本校の児童数の場合、複数学年であっても密にはならないで実施できます。



【マスクを外しての活動について】

文部科学省からは、マスクを外した水泳指導では、大声を出さないことと十分な間隔をとることが指示されています。プール内では水しぶきが多く飛沫拡散は比較的少ないでしょうが、次の点が心配です。

◆「バアッ！」の息継ぎ指導

水泳では、息継ぎ練習が必須です。水中では鼻から息を吐いておき、息継ぎで顔を上げた際には「バアッ！」と残りの息を口から一気に吐き出します。同時に新鮮な空気を吸い込みます。この「バアッ！」が問題です。通常なら2人1組で手をつないで向かい合って練習しますが、呼気が互いにかかり合います。ビート板を持ちながらの息継ぎ練習も、教師が児童の手を持つての息継ぎ練習も、この「バアッ！」が心配です。

本年度は、2人組での活動や児童どうしが密集する活動は行いません。高学年ならある程度の距離を保って泳がせます。とはいえ、教師が手取り足取り指導しないと、上達しないものです。児童はマスクを外して入水しますが、教師はマスクを着用します。不織布でなく、サラッとした水はけのよい繊維のマスクを着用して指導します。

◆プールサイドでの2m間隔確保

プールサイドでは2m間隔を確保します。ただし、シャワーは強い水しぶきの中であるので、そこまでの距離はとりません。



【更衣とマスク着用】

更衣室での密が心配ですが、本校の場合は隣接学年実施でも対応可能です。3年生以上の場合、男子は教室にて更衣します。女子はプールの男女更衣室を使用します。1.2年生では、教室にて男女別の更衣をします。ともにマスクを着用したままでの更衣です。マスクはプールサイドまで付けて入ります。

各自のプールバッグにはタオル・ゴーグルを入れます。着替えを終えた児童はマスクを付けたままプールサイドに広がり（2m間隔）、フェンス沿いに自分のバッグを置きます。準備体操が終わってからマスクを外し、バッグに入れてシャワーに向かいます。

【泳力を高められるのか】

児童の泳力を高められるかが心配です。児童間の距離を保ちながらの指導であるので、例年よりも余分な時間がかかり、指導効率は低下するかもしれません。まして、昨年度は全く水泳指導をしていません。各学年の指導レベル目標をどう設定するか、実態を見ながらの判断となります。

例年は、夏休み中に水泳の補習をしていました。これについても、本年度の実態を見な

がら、実施するかどうかを判断いたします。

本年度においては、十分な指導結果が得られないかもしれませんが、2年間も全く水泳の授業をしないことは避けるべく、市川町小中学校では各校で工夫しながら実施してまいります。ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

【地区水泳の中止】

夏休み中に行っていた地区水泳については、本年度は中止します。コロナ感染防止としての数々の措置を、監視の保護者をお願いするには負担が大きすぎるからです。

【改めてお願い】

今、兵庫県のコロナ感染者数は減少傾向にはありますが、新たな脅威はインド型変異ウイルスです。イギリス型よりもさらに感染力が強いと言われています。前述の水泳指導は、あくまで現段階での予定であり、今後の感染状況に新たな展開があれば、変更もあります。そして、保護者の方には改めて下記の点について、お願いいたします。

- ・毎日の検温をお願いします。
- ・子ども本人だけでなく、家族に発熱等の風邪症状がある場合は、登校させないでください。その際には、欠席でなく出席停止あつかいとします。

プールの話「日本はスペシャルな国」

例年ならば、夏になると強い日差しの中、冷たいシャワーとともに子どもたちの歓声が湧き起こるものでした。これぞ夏の風物詩です。当たり前であったこの光景ですが、今年はシャワーひとつをとっても、「大声を出さないで」「前の人との間を空けて」と制約ばかりとなります。

日本ではこのような制約下にありますが、外国での水泳指導はどんなものなのか、気になります。先進的な取組をしているのでしょうか。



我々はテレビで、外国セレブのプール付き豪邸を、よく目にします。その印象からか、欧米には学校でもプール設備が当たり前と思いがちですが、それは違うのです。公共施設としての市民用プールは多数あっても、学校のプールというのは、アメリカもヨーロッパもアジア諸国も、ほぼゼロに近いです。

外国では水泳の授業がない場合が多いです。したとしても、公共のプールまでバスで移動するので、その回数は日本よりはるかに少なくなります。欧米では、水泳は学校で習うというよりも、社会体育で習うことが多いです。校外のスイミングスクールや夏休み中のサマーキャンプなどを利用するわけですが、その機会がなかった人は、全く泳げません。オランダやイギリスは、水難事故から命を守る「溺れない水泳指導」の先進国ですが、その教育の主となる場合は、学校よりもスイミングスクールです。各学校にプールを持ち、各学校で水泳指導を行う日本は、世界ではきわめてスペシャルな国なのです。

近年になって日本のように水泳を学校教育に導入した国があります。それは韓国です。保護者の方なら「セウォル号沈没事故」を覚えておられるでしょうか。2014年、修学旅行中の韓国の高校生を乗せた客船が沈没し、その水死者が300人を超えた悲惨な事故でした。船長や航海士が現場放棄して逃げ出したということが非難されました。この事故をうけて、韓国では学校での水泳指導義務化に向かったのですが、プール設備のある学校はほとんどない状況です。公共プールの使用確保をめぐる、学校現場は大混乱。

こうして見ると、日本の学校水泳がいかに恵まれているかが分かります。その世界に誇る水泳設備を、今年は少しでも活用したいです。